

イエスはまなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退休方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 188号

「勿体ない！捨ててはいけない、
主の恵み。」

ヨハネ6：12（ヨハネ6：1～14）

伊藤 節



本日のみ言は、五つのパンと二匹の魚で五千人以上の群衆に給食した記事の中で、ヨハネの福音書にのみ出て来る主イエスの言葉です。

五千人を超える群衆は主イエスの奇跡によって十分な給食を受け満腹しました。群衆は満腹してもう口に来ないで手元に残っている不要となったパン屑を捨てようとしていました。其処で、捨てられる前に主イエスは残されている其れ等不要のパン屑を弟子達に集めさせました。

現在の私達の日常生活に在って、性能は劣化しておらず未だ使えるのに所有者の独断と偏見で其の品を廃棄処分して仕舞うと言った事は結構有るのでは。また、会社では企業方針の変更で今迄十分働いて来た有能な人材を解雇して仕舞うとか、勿論、法に則ってでしょうが。また、健康な体と健全な心を持っていた小学生が転校先で何らかの「いじめ」に逢って心に傷を負って仕舞った、などなど。私達人間は、会社・学校や隣り近所等の生活集団を含めて、どうして、自分勝手に自分中心に物事を考え判断して仕舞うのかと思わされます。他人ごとで片つけられる問題ではありません。

しかし、人間の此れ等の状態は、今に始まった事ではありません。既に、本日の御言の記事で、群衆に現れています。群衆は空腹の時は主イエスからのパンと魚を有難く頂戴し、満腹になれば同じパンと魚を惜しげもなく捨てようとしています。主イエスは無言で語ります、「感謝のパンが捨てるパンに変わったのは、給食のパンの価値が変わったのではなく、群衆の心に在るパンに対する価値尺度が変わったのだ。」と。本日の御言を通して、私達キリスト者に主イエスは仰います、「挫折している方、弱さを抱えている方、苦闘している方、こうした方々に声を掛け、励まし、福音を宣伝えなさい、『あなた方の頑張りや忍耐力が不足なのではありません、此の世の価値尺度が間違っているのです、真理である主イエスの価値尺度に生きる者になりましょう！』と。現在は主イエスの恵みの時代です。其の恵みの素晴らしさをお証し致しましょう。

（日本ホーリネス教団 牧師 伊藤 節）

霊 想



「戻って来られた聖霊なる神」

聖書・ヨハネ福音書14・15・21節

横浜岡村教会牧師・安藤 脩

主イエス・キリストは人間の弱さをご存知ですから、昇天前に、聖霊としておいでになることについて、何回も語っておられます。そしてそれは、イエス様が地上におられるより良い状態になるのだよと言われるのです。

聖霊としておいでになる主は、「弁護者」として、私たちの罪を、父なる神に執り成すお方です。それだけでなく、人間は罪のために霊的に鈍くなっており、神の御心（永遠に変わることはない真理）がわかりません。それ故、「真理の霊としておいでになり、私たちに真理を悟らせるのです。聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』とは言えないのです。」とは、その中心的悟りでしょう。

ヨハネ14章には聖霊の働きと、来臨の約束が記されています。「父

は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である。」（…16・17）でも、この世の人は「この霊を見ようとも知ろうともしない、受け入れることができない。」（…17）のです。私たちの周囲

を見てもこの現実があります。多くの人がキリスト教は良いと思いい、子どもをキリスト教主義学校に通わせています。聖書は毎年、ミリオネラーです。でも、キリストを心に受け入れ、キリストに従って行こうという人はなかなか起こりません。なぜでしょう？ その必要を感じていないからです。つまり、現状に満足しているからでしょう。また、自分の知恵と力に自信を持っているからです。しかしこれは、自分の罪に気付かず、滅びに向かっていることを感じていないからです。でも、心を静め、人間の今までの歩みを振り返ってみれば分かることです。そして日本の現状、世界の現状を見ても、滅びに向かっていることが分かります。

だが、あなたがたは、今のままじゃいけないことに、自分の罪に、滅びに向かっていることに気付きました。真理の霊があなたの内にあって、真理を悟らせたからです。

「しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたは

わたしを見る。わたしが生きていたので、あなたがたも生きることになる。」（…19）とは何と幸いです。イエス様が十字架に架かって死んでしまふ。世の人々がイエス様を見るのはこの時までです。でも、主キリスト・イエスは復活し、栄光の体をもつて、新しい命に生きておられます。主が昇天なさり、降臨なさるの

は、新しい命として、私たちを生かすためです。キリストがあなたの内にいることを忘れないでください。主はあなたと共におり、力いっぱい愛しておられます。

立 証

「聖霊に背を押されて」

函館栄光キリスト教会

廣瀬 潤子



昨年第五四回関東アシュラムに私は始めて参加させていただきました。緊張した三日間を過ごしました。私は一九八〇年に洗礼を受けてから、奏楽の奉仕を続けてきました。その間神様は困難なとき、選択

に迷ったとき御言葉から歩むべき道を教えてくださいました。二人とも寝たきりになった夫の両親との同居と介護のときも、神様が私の荷をとみに背負ってくれました。つらくても教会の皆さんの祈りに支えられていることの実感がありました。介護生活は八年間続きましたが、振り返ってみると充実した日々でした。三年前に非常勤の教師を退職してからはもつと自由な時間が増え好きなことに打ち込みました。それなのに何かが違う、と後ろめたさを感じていました。教会では奏楽者が一人なので、毎週欠かさず出席し、信徒間のいざこざも無く大変に満足と言いたいのに。神様は私の心に呼びかけているのです。「御言葉を聞いているのに、わたしに従っていないではないか」と。ヤコブの手紙一章二二節「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になつてはいけません」まさしくこれは神様が私に言っているのです。ではどうしたらいいのですかと、聖書を開くと、「隣人を自分のように愛しなさい」と示されました。ああ、これも私には苦手だと思いました。適当に仲良くはできても自分のようには愛せないからです。かつて、両親の介護のときは「目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできません」（第一ヨ

ハネ四章二〇―二二節)。この御言葉を信じることによって聖霊が私を動かして同居を決定できたのに、今の私はもうその力は無いのかと落ち込みました。解決の糸口を見つけたくてアシユラムに参加しました。福音の時、内村先生が「戸はみな鍵がかけられてあった」から今の教会の現状を指摘されました。礼拝に出席し、互いに恵まれたと喜び合い、外に出ようとしないと。その通り、私は外では口をつぐんでいるではないか。赤面の思いでした。先生からたくさん心に響くお話を聞くことができましたが、最後の日に、使徒言行録四章一二節から、「このお方だけが世界中の誰でも救うことができるのです」と心を込めて語られ、難病で言えただけひとつの特効薬を自分で独り占めしているのか。声を大に信じることによって、聖霊をうけ、力強い証人にならなさいと。背筋を正してお聞きしました。

アーメン

第8回函館栄光キリスト教会

ミニ・アシユラム報告

佐々木 雄次

当教会の第八回ミニ・アシユラムは、二〇一六年一〇月九、一〇日、



「新しく生まれる」(ヨハネ三章三節)を主題とし、助言者に日本同盟基督教団大分恵みキリスト教会牧師岡山敦彦師をお迎えして、三六名うち他教会からは五教会、一三名)が参加して開かれました。岡山師は、「福音の時」では、マタイ福音書二〇章一一九節(ぶどう園の労働者のたとえ)により、最後にぶどう園にきた労働者だけでなく、朝早くから働いた労働者にも大きな祝福があったことを、御自分が献身された時の証しを交えて話され、「福音の時」では、エフェソ書二章一一節以下により、キリストは二つのも

のを一つにすると説かれ、個々の教会に限定することなく、全てのキリストにある教会の一致について説かれました。わたしたちの教会は、単立ということもあり、全世界の教会がキリストの体の肢であり、互いに仕え合わなければならないという認識に少し欠けているのではないかと、改めて考えさせられたところです。

また、「証しと讃美の時」には、岡山師が御自分の著書「信仰の眼で読み解く絵画」に登場するレンブラント、デューラー、ミレーなどの絵画をプロジェクトで映し出し、絵の中に込められた信仰的な主張について解説してください、楽しい時間になりました。祈りの細胞では、他教会から参加された姉妹の力強い証しと祈りにいつも励まされます。各細胞で、互いのニーズを覚えて執りなしの祈りがなされましたが、執りなしの祈りがどれほど信仰生活にとって大切かを実感する機会となりました。細胞のメンバーは、アシユラムの後にも互いに祈り合っており、教会の垣根を越えた祈りの交わりが形成されてきていると思います。「充滿の時」には、今年も多くの証しがなされ、多くの感謝の祈りが溢れ出し、閉会となりました。今年「祈りの細胞」のグループを一つ減らしましたが、時間を少し長くしました。これまでは、礼拝堂で、二

つのグループが祈っていましたが、「隣のグループの声が気になる」との意見が出されたためです。結果はとも好評でした。祈りのための環境を整えることの大切さも示されたところです。

第32回浦和別所教会

アシユラム報告

浦和別所教会伝道師

澤田 石秀晴

去る六月三日午後六時三〇分から四日午後二時三〇分までの日程で、浦和別所教会での第三二回アシユラムを開催致しました。今年度は、「先ず神の国と神の義を求めよ」を主題とし、マタイによる福音書の「山上の説教」を中心に御言葉に聴くプログラムと致しました。この主題のもと西海満希子牧師をアシユラムの導き手としてお迎えし、霊的な指導をして頂きました。以下に概要を記します。

【一日目】(六月三日)

○開会礼拝(午後六時三〇分〜七時)

オリエンテーションで、アシユラムとは何かの基本を確認し合った後、西海先生からマタイによる福音書五章一〜一二節での「八つの幸い」についてメッセージを頂きました。



○主日礼拝(午前10時三分〜一二時)

西海満希子先生からマタイによる福音書六章一九〜三四節をもとに、「神の国と神の義を求めよ」という題でメッセージを頂きました。

三三節の「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」という言葉に迫りと励ましを感じる礼拝でした。

○恵みの分ち合と祈り(午後一時〜二時)

恵みの分ち合いでは、朝の静聴の時及びメッセージで示された御言葉を中心に語り合いました。この時、昨日とは違った深い導きを、今回の御言葉から与えられたとの話が参加者からありました。その後、自分にとっての課題を祈りのカードに記入し一年間祈り合うことにしました。最後の祈りは、今回の恵みの時を感謝する言葉が続きました。

○充滿の時(午後二時〜二時三分)

西海満希子先生から、「求めよ、さらば与えられん」が三つのグループとも心に響く言葉として取り上げていたことに触れ、新会堂が完成してからの伝道についても、この言葉を心に留め伝道に励むようにとの勧めがありました。新会堂の建設を推進しているこの時期に、思いを新たにされ恵みを頂いたアシュラムの時でした。

○静聴の時(午前九時四五分〜一時一五分)

この時間では、各人がマタイによる福音書の五〜七章を読み、黙想に徹しました。

○開心の時(午後七時〜八時)

三グループに分かれメッセージと同じ聖書箇所を「黙想し御言葉の分ち合いをしました。メンバーから心に響いた御言葉と証が語られましたが、どれも参加者の心にしみ入るものでした。今回は、恵みに満ちた開心の時でした。その後、自宅に戻り連鎖祈禱に入りました。

『完全なヨギン(ヨーガの行者)としてのイエス』

(インド) D・P・タイタス師

(海老沢・飯島(庸)共訳)

サンスクリット"Yoga" (英語のヨーク"yoke")は「しぼる」、「参加する」、「一つにする」ことを意味する。

イエスは、父なる神と永遠の昔から一つであった故に、生まれながらヨーガの達人であった。

講師と講話が一つであるように、御父と御子は一つであった。

「わたしと父とは一つである」(ヨハネ一〇章三二節)

「イエスは御父から遣われた」(同四章三四、五章三七、六章三九節その他)。

「イエスは世が始まる前に、父と共に栄光を持っていた」(同一七章五節)。

「イエスの完全なヨーガ」(同一七章二一、二二〜二三節)

「イエスは主であり、神である」(同二〇章二八節)

イエスの弟子達は、ぶどうの木と枝がつながっているように(一五章)又、神のみ子イエスが御父を一つとされているように(一七章一一)神にあつて一つにまとめられている。

アシュラム予告

●第51回 関西アシュラム
とき 17年9月17日(日)〜18日(月)
ところ 神戸母の家ベテル
助言者 関西聖書神学校長 鎌野善三師

●第55回 関東アシュラム
とき 17年9月18日(月)〜20日(水)
ところ 山崎製パン箱根山荘
助言者 村瀬俊夫師

●第9回 函館栄光キリスト教会アシュラム
とき 17年10月8日(日)〜9日(月)
助言者 有馬歳弘師

●第42回 西川口教会アシュラム
とき 17年7月8日(土)〜9日(日)
助言者 西海満希子姉

●第36回 横浜岡村教会アシュラム
とき 17年7月22日(土)〜23日(日)
助言者 杉本和生師
(新宿西教会副牧師)

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内
日本クリスチャン・アシュラム連盟
振替口座 東京〇〇一〇〇一四五五八